



受講者募集要項

ロシアの横顔

概要：2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻以降、日本におけるロシアに関する報道では、プリゴジン氏・ナワリヌイ氏の突然の死や大統領選挙の不正疑惑などのネガティブな側面のみが取り上げられる傾向にあります。国家としてのロシアの行為は当然非難されるべきものですが、そのような今だからこそ、本来豊かな芸術文化を有し、多民族が居住するロシアという国の多様性を再認識する必要があるのではないのでしょうか。このような観点から、現代ロシアを芸術や文学、ロシア国内の少数民族の生活などから改めて見つめ直したいと思います。

日程

令和6年10月12日(土)

13:10~13:20 開講式

13:20~14:50 第1回

「永久凍土の大地にくらすものたち」

大石 侑香 (神戸大学 大学院国際文化学研究科 准教授)

講義内容：シベリアには40以上の先住民が暮らしています。冬にはマイナス40℃以下が続く極寒の大地で、彼らは狩猟採集や漁撈、トナカイ飼育等を複合的に営んで暮らしてきました。講座では、西シベリア森林地帯のハンティの生業活動を取りあげ、極北環境への適応のあり方や、人間と家畜との関係だけに閉じない、魚をふくめた生物たちの共生関係について論じます。

15:10~16:40 第2回

「ロシア文学の現在地：『国家』への批判と『人間』の物語」

高田 映介 (神戸大学 大学院国際文化学研究科 講師)

講義内容：これまでにロシア語で書かれた文学や思想の多くは、権力とそれが生み出す不条理や苦しみに抵抗し、批判する試みであったと言える。著名な大長編群を次々と生み出した19世紀に限らず、ソ連の頃でも、作家たちは国家や権力の枠組に収まらない人間の喜びや悲しみ、そして美を表現してきた。本講義では最近刊行された現代ロシア文学の作品を紹介し具体的な分析をまじえながら、ロシアの文学やその担い手たちが今どのような状況にあり、私たちとどのようにかわるのかを考えたい。

- ▶ 受講対象者 一般社会人、学生 (中学生以上)
- ▶ 募集人数 150名 (先着順受付)
- ▶ 講習料 無料
- ▶ 申込方法 申込書 (裏面) の必要事項をメール送付、または、郵送、FAXにてお申し込みください。QRコードの申込みフォームからお申込みいただけます。
※ご受講いただけない場合のみ連絡しますので、連絡がない場合は、直接会場にお越しください。
- ▶ 会場 国際文化学研究科 F棟401教室 (4階)
阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、「神大国際文化学研究科前」下車